

技術・家庭

(技術分野)

(13) 技術・家庭（技術分野）

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通じた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) ものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察したり、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考え、説明したりする学習活動を充実させるなど、言語能力の育成を図るための工夫 (3) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報を収集したり、実践結果を発表したりするなど、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 実践的・体験的な活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編成上の工夫等
3 その他	今日的課題や安全への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 技術の最適化と課題解決のプロセスを巻頭に示すとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながる場面として、「活動」を数多く取り上げ、一連の学習過程の中に、主体的に調べたり、生徒どうしが協働して比較・検討したりするための発問を設けるなど、深い学びを実現できるよう工夫されている。 〔例〕（P11～15、P21 等）</p> <p>●着眼点(2)について 主体的・対話的で深い学びになるように、教科書の巻頭に、学習の流れ、思考のツールの活用、まとめと発表の仕方などが技術分野の学習方法として掲載されている。〔例〕（P2～3）</p> <p>●着眼点(3)について インターネットを活用して効果的に学習を進めるためのデジタルコンテンツを用意し、該当箇所にDマークを付すよう工夫されている。〔例〕（P24、P48、P63 等）</p>	<p>●着眼点(4)について 「問題解決の評価、改善・修正」のページを設定し、生徒自身の問題解決について、問題が解決できたかどうかという結果の評価に加え、問題解決の過程を振り返ることができるよう工夫されている。 〔例〕（P76～77、P128～129 等）</p> <p>●着眼点(5)について 家庭や地域など身近なところから課題を見出し、解決できるよう一連の過程をわかりやすく表示するなど工夫されている。〔例〕（P38～39 等）</p> <p>●着眼点(6)について 技術による問題解決をどのように進めていくのかを分かりやすく示すために、プロセスごとに「問題解決カード」を設定し、自らの問題解決に主体的に取り組むことができるよう工夫されている。〔例〕（P39、P41 等）</p> <p>●着眼点(7)について 「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて、教科間・学校種間の連携が高められるよう工夫されている。 〔例〕 「リンク」（P20、P30 等） 「他教科」（P18、P26 等） 「小学校」（P18、P30 等）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
6 教図	<p>●着眼点(1)について 設計・計画の場面で、目的や条件を確かめ、技術の最適化を図る場面が設定されていることに加えて、一連の学習の流れを明確にすることで、技術の見方・考え方を養うことができるよう工夫されている。 〔例〕 (P12～13、P36～37等)</p> <p>●着眼点(2)について 設計・計画のまとめをグループで発表し合うことで、対話的な活動を通じて自らの設計を振り返り、深い学びを実現できるように、まとめや発表の工夫などが「やってみよう」として掲載されている。 〔例〕 (P71、P112、P178)</p> <p>●着眼点(3)について 二次元コードを実習題材や別冊の各ページに付することで、動画などを閲覧して学習を深め、理解をより確かなものにする工夫がされている。本紙や別冊の技能ハンドブックの二次元コードから、基礎技能の様子を確認できるよう工夫されている。 〔例〕 本紙 (P27、P29等) 別冊 (P3、P5等)</p>	<p>●着眼点(4)について 各単元にめあてが設定され、見通しをもって学習活動ができるとともに、実習題材の学習でも、生徒個々が問題発見から解決までをできるように配慮し、学習項目ごとに設けた「ふり返る」によって、学んだ意義や必要性を実感できるよう工夫されている。 〔例〕 (P13、21、23等)</p> <p>●着眼点(5)について 生物育成の技術では、実習や見学の要点になる地域社会の写真やイラスト等を掲載し、児童の興味・関心が地域に向くよう工夫されている。 〔例〕 (P84～85等)</p> <p>●着眼点(6)について 各単元に身近なテーマをもとに主体的に取り組めるよう「やってみよう」を設けたり、積極的に学習を進めることができるよう「発展マーク」を付したり工夫されている。 〔例〕 (P81、P127、P191等)</p> <p>●着眼点(7)について 学習の項目の冒頭に、「リンクマーク」と教科名を付し、他教科・小学校との関連を示すよう工夫されている。 〔例〕 (P12、P36、P72等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
9 開隆堂	<p>●着眼点(1)について 巻頭で技術の見方・考え方を示し、各単元の「調べてみよう」では、学習の視点が技術のしくみを通して、最適化を意識づけるよう工夫されている。 〔例〕 (P14～15、P22 等)</p> <p>●着眼点(2)について 生徒どうしが関わりをもちながら、技術の理解を深めることができるように、教科書の適所に、学習活動の流れや話し合いの課題設定などが「話し合ってみよう」として設けられている。 〔例〕 (P88、90、136 等)</p> <p>●着眼点(3)について 各題材に記載した二次元コードを、右ページのページ番号横に配置し、動画や資料など、さまざまなコンテンツにアクセスすることによって、生徒がより主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 〔例〕 (P27、P29、P35 等)</p>	<p>●着眼点(4)について 学習のまとめりに「ふり返り」、各内容の終わりには「学習をふり返ろう」が設定され、自己評価できるよう工夫されている。 〔例〕 (P43、P55、P92～93 等)</p> <p>●着眼点(5)について 生徒の興味・関心が地域に向くように、地域の技術について取り上げた写真や話題などを豊富に使用するとともに、技術と産業とのかかわりについて随所に具体例を掲載し、理解が深まるよう工夫されている。 〔例〕 (P13、P18～19 等)</p> <p>●着眼点(6)について 内容の理解を深めたり、応用したりする「課題」のマークを設けることで、主体的で対話的な活動を生むよう工夫されている。 〔例〕 (P54、P91、P97 等)</p> <p>●着眼点(7)について 各章の初めに、小学校、中学校の各教科との関連を明記するとともに、関連する他の学習項目等についてはリンクマークを示し、適切な場面で連携を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕 リンク (P24、P26 等) 小学校 (P40、P103 等) 他教科 (中学校) (P34、P40 等)</p>

2 使用上の便宜

項目	総ページ	(1) 内容別配当の分量 (ページ数)						(2) 教材・資料等の分量							
		ガイダンス等	A 材料と加工の技術	B 生物育成の技術	C エネルギー変換の技術	D 情報の技術	その他	使用されるマーク数				ICT化に類するもの (二次元コード・ウェブサイト等)	注釈及び用語説明の数	書き込み欄の数	三重県に関わる記述等
								安全	情報モラル	環境	防災				
2 東書	306	20	70	50	60	66	40	19	4	10	7	36	58	26	—
6 教図	302	12	68	42	64	84	32	17	2	6	2	43	72	51	○
6 教図 別冊「ハンドブック」	42	2	12	10	6	10	2	17	0	0	0	19	4	0	—
9 開隆堂	302	22	74	46	54	90	16	22	1	22	9	56	35	27	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編成上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ AB判 210×257(mm) ・植物油インキを使用 ・軽量な用紙を使用 ・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・カラーバリアフリーの観点から配色とデザインを工夫している。 ・巻末に簡単なプログラミングをいつでも体験できる冊子が別冊付録として付している。
6 教図	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ 特別に調整した 203×264(mm) で、別冊は193×264(mm)である。 ・植物性インキを使用 ・軽量な用紙を使用 ・ユニバーサルデザインフォントを採用し、文字サイズを20%大きくしてある。 ・ユニバーサルデザインに配慮し、重要語句の視認性を上げるために、青太文字にしてある。 ・A・B・C・D編それぞれに設計・計画ができるワークシートがあり、別冊には基礎的な技能が参照できるようまとめている。
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ AB判 210×257(mm) ・環境に配慮したインキを使用 ・軽量化された用紙を使用 ・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・カラーバリアフリーデザインに配慮している。 ・資料としてコンピュータの操作やプログラミングについてまとめてあり、巻末に技術分野の学習の振り返りが設定されている。

3 その他

今日の課題や安全への配慮	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で示されている「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」及び「計測・制御のプログラミング」は、生徒の発達段階も考慮しながら、社会で活用されている技術をなぞらえた題材になるように工夫されている。 ・プログラミング学習は、個人による体験の差に対応できるよう、簡単なプログラミングをいつでも体験できる「今すぐできる！プログラミング手帳」が別冊付録として用意されている。 <p style="text-align: right;">P218～P249、プログラミング手帳P1～P8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「作業を安全に楽しく進めよう！」を設け、安全な環境、安全な行動、安全な作業における注意事項を記述し、安全への意識を高めてから各実習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・実習や実験などにおける安全のポイントは、「安全」マークを付けて、生徒の注意が喚起されるよう工夫されている。 <p style="text-align: right;">P4～P5、P53、P54等</p>
6 教育図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「プログラムを学ぼう！」の特集ページを設けて、身近にあるプログラムを紹介しながら、生徒が興味をもって学習を進めることができるように工夫されている。 ・双方向性のコンテンツでは、学校の環境に合わせて実習題材が選択できるよう「別冊ハンドブック」にビジュアル型（スクラッチ）と日本語入力型（なでしこ）の基本操作方法を丁寧に示し、論理的な思考力を身につけることができるように工夫されている。 <p style="text-align: right;">P208～P263、別冊P30～P39</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりでは作業の内容に応じた安全のポイントを設けて、生徒が作業中に怪我をしないよう配慮されているとともに、実習題材の工程ごとに、安全への配慮が必要な作業には「安全マーク」が付されている。 ・「別冊ハンドブック」では、基礎的な技能を示す中で、作業手順や工具の安全な使用を示し、事故防止への配慮がされている。 <p style="text-align: right;">P25、P32、別冊P4、別冊P5等</p>
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の目的や問題解決のための視点、プログラミングの例などを掲載し、見通しをもって双方向性のコンテンツのプログラミングに取り組むことができるように工夫されている。 ・巻末資料や二次元コードを設け、動画による解説を通して、無理なく安心してプログラミングについての理解を深めることができるように工夫されている。 <p style="text-align: right;">P238～P259、資料P270～P287</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の折り込みページに「作業の安全」を設け、チェックリストを用いて作業に入る際の安全確認ができるようにし、安全への意識を高めるよう工夫されている。 ・個々の学習場面と関連づけて「安全マーク」を付し、それぞれの作業に即した注意点が記載されている。 <p style="text-align: right;">P3～P5、P70、P73等</p>